

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530131

研究課題名（和文）

NATO、EU拡大後の南東欧の地域協力の展開と旧ユーゴスラヴィア

研究課題名（Regional Cooperation in the Southeast Europe after the enlargements of NATO, the EU and the former Yugoslavia）

研究代表者

定形 衛（SADAKATA MAMORU）

名古屋大学・法学研究科・教授

研究者番号：20178693

研究成果の概要（和文）：

NATO、EU 拡大に伴う、南東欧の地域協力、地域主義についての特徴と、地域協力の問題点について有益な成果を獲得することができた。そこでは、地域協力の枠組みにおける国家利益の相克、NATO、EU への加盟競争が地域協力を阻害している点が重要であった。また、研究過程において地域協力にともなう地域境界線に対する国家や国民、住民の意識の変化や国家を超えるあるいは国家の内部のアイデンティティ意識の表出にともなう境界線意識の問題と地域協力というあらたな問題領域に取り組むことができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, I gained some useful achievements concerning the characteristics about the new regionalism and regional cooperation in the Southeast Europe. In the process of two enlargements of NATO and the EU toward this region, I examined the conflict between regional cooperation and national interests, and their competitions for joining these two international organizations have sometimes impeded the advancement the regional cooperation in the Southeast Europe. Moreover, I paid the attention to the border problems at the regional, national, and local levels in relation to the identity consciousness at these three levels.

交付決定額

（金額単位：円）

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2008年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 2009年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 2010年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 2011年度 | 600,000   | 180,000 | 780,000   |
| 総計     | 3,300,000 | 990,000 | 4,290,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：NATO, EU, 南東欧、地域協力、旧ユーゴスラヴィア

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の学術的背景は以下の点にあ

った。

① [冷戦後のヨーロッパ政治の変容とEU、NATOの東方拡大]本研究の第一の学術的背景としては、冷戦後のEU、NATOの東方拡大の論理とその政策の実際を南東欧諸国の場合に焦点をあて、EU、NATO両者の間にある「ヨーロッパとアメリカ」という対抗的な側面と「経済と軍事」という分業的役割分担の両方向から比較検討することであった。研究代表者は、両者の東方拡大を現代版「東方問題」と認識し、それが一枚岩な整合的な両者の拡大ではなく、ヨーロッパ政治の主導権を視野においた緊張関係のなかで展開されてきたことに注目した。

言い換えれば、ヨーロッパ政治に限らず安全保障、経済統合の再編のなかに、その標的の一部となってきた南東欧を組み込むことで、拡大のダイナミズムにおける上述の対抗的側面、分業的側面が鮮明に描き出せるのではないかと考えたのである。

近代ヨーロッパ政治史の主要な展開軸となった東方問題が、世界大戦の時代、冷戦の時代を越えて現在どのような様相を呈してきたのか、ヨーロッパ政治史の宿命的な課題である「東方問題」の今日的課題としてのEU、NATOの「東方拡大」の意味を問うことが第一の学術的背景であった。

これとの関連では、W. Jacoby, *The Enlargement of the European Union and NATO* (Cambridge UP, 2004)やF. Carr and K. Ifantis, *NATO in the New European Order* (Macmillan, 1996)に代表される先行研究があるが、いずれも安全保障、政治領域に的を絞ったもので、南東欧への拡大やその可能性、南東欧の地域主義や近代のヨーロッパの南東欧認識、あるいはオリエンタリズムの視座を批判する形では論じられてい

ない。日本においては、NATOとEUの拡大を南東欧から論じた本格的な論考はまだ見られない状況であった。

② [紛争後地域としての南東欧の地域協力の可能性とヨーロッパ政治]

第二の学術的背景は、冷戦後の南東欧社会の地域協力における旧ユーゴスラヴィア紛争の影響を分析することにあつた。南東欧地域は紛争後の国家建設、平和構築の焦眉の対象として国際機関の広範な参画、関与を仰ぎながら、地域協力の当事者たる各国は、和解への道を模索し、経済協力、安全保障協力といった現実的課題に取り組もうとし、また、リージョナリズム、グローバリズムの進展のなかで、どのようにその過程に参入していくかを最大の課題としてきたからである。

歴史、社会構造、民族構成、文化の多様に入り組む当該地域における地域協力は歴史的に何度も試みられながら、確固たる体制にまで結実することはなかった。しかし、旧ユーゴスラヴィア紛争を経た南東欧が、どのように、西側の東方拡大を地域としてどのように受け止め、参入の道を切り拓いていくのか。多くの課題を抱えた南東欧がいかにして強固なる地域協力の可能性を見出していくのか、また、EU、NATOという大きな地域機構との位置をどのようにヨーロッパ政治のなかで確保していくのか、これまでにない地域協力のケースとして、学術的に言い換えれば、グローバル化のなかの地域協力の在りか、有効性の検討に大いに資するものと考えたのである。

この領域においても、本格的な研究は少なく、ザグレブ大学のR. Vukadinovic, *Security in South-Eastern Europe*(2002)、S. Lucarelli, *Europe and the Breakup of Yugoslavia*(2000)があるにとどまり、東方問題の文脈において論じられたものは、政治史、国際関係論

の領域でも管見の限り見出すことができない。以上のような研究の意義と研究状況を踏まえて本研究は開始された。

## 2. 研究の目的

冷戦後のヨーロッパでは、冷戦期には「西側ブロック」内の二つの潮流として親和的に理解されてきたNATO軍事同盟とEC（EU）経済統合が、ヨーロッパ政治の主導権の獲得をめぐる相互の亀裂、対抗関係をあらわにするようになった。他方、旧東欧諸国は、体制転換後の過程のなかでEUやNATOへの加盟へ意欲をしめし、それにEU、NATOの東方拡大が呼応し、「東方問題」の今日的再現という形をとったのである。

旧東欧のうち中東欧諸国（ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキア、）がいち早く両者への加盟の足掛かりをつかんだのに対し、南東欧諸国（バルカン諸国：旧ユーゴスラヴィア、ブルガリア、ルーマニア、アルバニア）は10年におよぶ旧ユーゴスラヴィア紛争の影響もあってスムーズな体制転換の道を阻害されてきた。ようやく2000年にはいり南東欧における経済協力を軸とした地域協力体制が端緒についたといえる状況である。なかでも西バルカンとよばれる（セルビア、モンテネグロ、ボスニア、マケドニア、アルバニア）は依然としてヨーロッパ政治過程への復帰の道に乗り切れていなかった。

しかし、南東欧の安定なしにヨーロッパ全体の平和と安定も確保し得ないことも確かであり、ヨーロッパ現代政治に占める南東欧の位置と今後の地域協力の軸ともなる旧ユーゴスラヴィア、とりわけセルビアの役割が重要となっていることは否定できない。そこで、本研究では、今日のヨーロッパ政治における南東欧の地域協力の可能性を中心課題とし、そこにおける旧ユーゴスラヴィアの動

向を見据えることにした。

また、現代版「東方問題」ともいえるべきEU、NATOの拡大構想、それに対して接近と反発のなかで自立を模索する南東欧諸国、この二つの政治力学を、現代ヨーロッパ政治史のなかで捉えることが本研究の目的であった。

さらに、本研究は、冷戦後の東欧政治史、ヨーロッパ地域統合、紛争後の平和構築論、内発型の地域協力体制の創出という、ヨーロッパ政治の多面的な側面を、旧ユーゴスラヴィアを軸に据えることで、その相互関連性を明らかにしようとしたのである。

これまで、EU拡大、NATO拡大、南東欧の平和構築については、個別におこなわれてきたのであるが、これらを現代版「東方問題」という軸から、その相互関連性、さらにグローバリゼーションの進展するなかで包括的にとらえ、政治経済的側面、文化社会的側面から分析しようとするのは、本研究で強調されるべき特徴であり、ヨーロッパ政治史研究に貢献すること大であると考えたからである。

ヨーロッパとアメリカの地域戦略が交錯する問題として二つの東方拡大が南東欧の地域協力を影響を与えるかの分析は、今後のグローバル化の行方と世界各地でみられる地域協力の行方を占う意味で大きな研究課題である。日本におけるこの地域の政治的ダイナミクス分析は旧ユーゴスラヴィア紛争を契機に高まってきたものの、南東欧全体を射程におさめ、グローバリズム、リージョナリズム、ナショナリズムを旧ユーゴスラヴィア紛争の経過とこの地域の政治史を含めた分析は端緒についたばかりであった。本研究はこうした意味で、南東欧地域協力の研究に先駆的意味をもつものであり、ここに研究のもう一つの目的をみいだしたのである。

### 3. 研究の方法

当該期間においては、旧ユーゴスラヴィアの主要都市、ベオグラード、ザグレブ、スポティツァの、国際問題研究所、政治研究所、などで、現地の研究者と共同研究もおこない、さらに現地の実態調査、インタビューなどを行いながら進めた。そこではヨーロッパ政治史の研究を十分に渉猟しつつ調査がおこなわれたのである。具体的には、①NATOとEUの旧ユーゴスラヴィアへの拡大過程の考察については、南東欧とNATOおよびEU関係における研究叢書の整備によって、これらの機関が他の東欧地域と比較して、旧ユーゴスラヴィア紛争と南東欧への拡大についてどのような分析を行ってきたのか、冷戦後のNATO、EUの地域戦略との関連で理論的に裏付けた。

アメリカから自立した外交、安全保障政策を模索してきたヨーロッパにとって、旧ユーゴスラヴィア紛争およびその後の平和構築への貢献は、NATO、EUの信頼性と地域統合の結束をみる試金石であり、この点を焦点として研究をすすめた。

#### ②旧ユーゴスラヴィアにおける調査とレビュー

南東欧地域協力の可能性について、旧ユーゴスラヴィアのセルビアのベオグラード市、スポティツァ市、クロアチアのザグレブ市、で研究をおこなった。研究代表者は、紛争以後の南東欧協力について2002年以降、リュブリャナ（スロヴェニア）、ザグレブ（クロアチア）、サラエボ（ボスニア）の研究機関において研究報告を行ってきたが、内発的な地域協力の視点からの調査については、十分ではなかった。そこで、本研究では、ミロシェヴィッチ退場後のセルビアの地域協力のとらえ方、さらにコソヴォ問題との関連でセルビアが抱える地域協力の課題を現地調

査した。とりわけ、調査はEU加盟交渉への参入を焦点に据えて行なわれた。

ベオグラードの国際政治経済研究所、政治学研究所、セルビアとハンガリーの境界都市であるスポティツァ市の一般市民を主たる対象にした。また、国際政治経済研究所とは、国際シンポジウムを定期的に行い参加し、研究報告をおこなった。

### 4. 研究成果

旧ユーゴスラヴィア紛争の関与と南東欧における平和構築、民主化支援、経済市場化支援におけるEUとNATOの関与の特徴とその政治的、経済的な要因の明示がなされた。さらにその関与の過程にみられた双方の南東欧認識を「東方問題」と「オリエンタリズム」の文脈で抉りだし、冷戦後の両者の地域戦略の論理と実際を提示することができた。

紛争後社会における当事者の和平協定、さらに国際社会による平和構築プロジェクトの受け入れと、現地の政治過程との調整や乖離、反発の過程を明らかにし、現地自身の内発的な国家建設と地域協力の構想の可能性について調査し、地域協力はなによりも現地の和解と発展のためのものでなければならず、EU、NATOと現地の双方向の政治過程を明らかにすることで、今後の国際機関の関与と地域協力の在り方という課題が提示されたことが主要な成果である。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- ① 定形衛「東アジア地域主義の可能性と日本外交」『法政論集』（日中韓学術研究特集号）、査読なし、239号、2011、203-225。
- ② Mamoru Sadakata, “New Border Studies and Its Implications in Southeast Europe”, *Liccosec* (Lingua-Culture contextual Studies in Ethnic conflicts

- of the World, Osaka University, non peer reviewed), vol.9, 2011, 133-142.
- ③ Mamoru Sadakata, “Serbian Diplomacy in the Balkans”, *Liccosec*, (non peer reviewed) vol.7, 2009, 20-26.
- ④ Mamoru Sadakata, “Croatia between EU & NATO”, *Liccosec* (non peer reviewed), vol.6, 2009, 74-79.
- ⑤ 定形衛「旧ユーゴ紛争とディアスポラ問題：クロアチアとコンゾヴォを事例に」『法政論集』224号、査読なし、2008年5月、207-237。  
〔学会発表〕(計9件)
- ① Mamoru Sadakata, East Asia Cooperation Forum 2011 East Asia and the New Regionalism, Beijing (中国人民大学) November 6, 2011.
- ② Mamoru Sadakata, International System in Transition: China and East Asia, Beijing (中国政法大学), October 23, 2011.
- ③ Mamoru Sadakata, The Meaning of Borders and Border Issues in the Age of Globalization: Europe and Asia, Belgrade (Institute of International Politics and Economy), September 15, 2011.
- ④ Mamoru Sadakata, Comparative Study of Border Problems in the Post-Cold war: the Southeast Europe and the Northeast Asia, Subitica, September 11, 2011.
- ⑤ Mamoru Sadakata, Japan and Serbia: Regional Cooperation and Border Issues: A Comparative Analysis, Belgrade (Institute of International Politics and Economy), September 9-10, 2010.
- ⑥ Mamoru Sadakata, Serbia in Contemporary Geo-Strategic Surroundings, Belgrade (Institute of International Politics and Economy), September 21, 2009.
- ⑦ Mamoru Sadakata, Serbia and Japan-Relations with Neighbors and Border Issues, Belgrade (Institute of International Politics and Economy) September 18, 2009.
- ⑧ Mamoru Sadakata, Japan and Serbia in a Foreseeable Future, Belgrade (Institute of International Politics and Economy), September 23, 2008.
- ⑨ Mamoru Sadakata, A Transformation of Society and Identity in the National, Regional and International Dimensions, Zagreb (Institute of International Affairs), September 19, 2008.
- 〔図書〕(計3件)
- ① E. Karanovic, Dz. Hatibovic, I. Ladevac, M. Sadakata, et al., *Japan and Serbia*, 2011, 191.
- ② M. Jazbec, J. Guskova, M. Sadakata, et al. *Contemporary Geostrategic Surroundings in Serbia*, Belgrade, 2010, 464.
- ③ 初瀬龍平・松田哲・定形衛『国際関係の中の子ども』、御茶の水書房、2009年、267。
6. 研究組織  
 (1) 研究代表者 定形衛 (SADAKATA MAMORU)  
 名古屋大学・法学研究科・教授  
 研究者番号：20178693  
 (2) 研究分担者  
 研究分担者なし  
 (3) 連携研究者  
 連携研究者なし